

西村大臣記者会見要旨

令和2年6月27日（土）10時42分～10時55分（13分）

（於：中央合同庁舎第8号館1階S101・103会見室）

（大臣冒頭発言）おはようございます。お待たせをいたしました。まず昨日の新規感染者のことについてお話し申し上げます。12の都道府県で確認をされまして、その数は5月9日以来でありますけれども、100人を超えまして105人という報告を受けております。この会見の前に今、実は尾身先生と電話をして状況確認をしていたところであります。あわせて大野埼玉県知事ともお話をさせていただきました。東京は54人ということですが、埼玉が16人と多い数字になっておりますので、そういった点について確認をさせていただきました。状況の共有をしたところでもあります。

東京については今申し上げたとおり54人ということで、6月24日にも55人の数字が出ています。昨日の54人のうち26人は、約半分は感染経路が判明しているということで、夜の街の関係者が31人ということでもあります。協力的に二次感染を防止するために検査を受けていただいておりますが、集団検査の数は含まれていないということでもありますけれども、これまで行ってきた集団検査によって陽性になった方の濃厚接触者の数がかかなり含まれているということで、夜のいわゆるバー、クラブなどの接待を伴う飲食業の関係者の濃厚接触者ということで、夜の街関係ということと31名ということとありますから、ある意味でここも積極的に二次感染を防止するために受けていただいている、協力をしていただく中で感染者がわかってきているわけがあります。その方の濃厚接触者ということで、そこもある意味で抑えていけるということとありますから、そういったことも踏まえて尾身先生とも「数字、データをよく分析しよう」ということとお話をさせていただきました。

それから埼玉県・大野知事ともお話をしまして。知事は分析を進めておられるようであります、やはり東京との関係が多いのかなということで、私どもが聞いている、報告を受けている中ではやっぱり東京で勤務されている方もおられますので、このあたりは分析をよく進めていきたいと思っております。いづれにしてもお一人お一人、個人個人で御自身の命を守るため

にも、ぜひ感染防止策はしっかりと講じていただくと。マスク、手洗い、消毒、それから規則正しい生活、睡眠、食事、歯磨き、こういったことをしっかりとやっていただいで免疫力を、健康を維持していただくと、保つということが大事だというふうに思っています。

それから3密は避けるということでもありますし、事業者の皆さんには感染拡大防止のガイドラインをつくっていただいでいますので、それをしっかりと守っていただきながら、感染防止策を講じていただきながら、事業活動を広げていくということをお願いをしたいと。そうした取り組みを徹底していただきたというふうに思っています。いずれにしても数字の分析を進めながら、一層の緊張感を持って対応をしていきたいというふうに考えています。

それからこうした中でもありますけれども、さまざまな知見も出てきておりますし、そうしたことを踏まえて感染拡大防止策と社会経済活動の両立を図っていくために、幾つかの取り組みを進める予定にしております。まず8月1日以降の屋内イベントの開催について、6月19日に第1回の会議。これはさまざまな劇場とかホールとかの関係者、こうした方々、イベントの関係者と専門家の皆さんで会議を進めていくということで、第1回を6月19日に開催したところですが、その議論も踏まえまして、第2回の検討会を6月30日に開催し、接触感染とか飛沫感染とか感染経路ごとのリスク評価を行った上で、より効果的な感染防止策の検証結果を議論する予定にしております。「富岳」のシミュレーション、分析も結果が出つつありますので、そういったことも活用しながら議論を進めていただきたいというふうに思っております。

それから黒川先生、山中先生、永井先生、安西先生、4人の先生方に御参加いただいで、これまで行ってきました感染防止策、対策の効果分析を、これも「富岳」であったり、あるいは人工知能を活用して効果分析を行っていかうとするわけでありますけれども、その効果分析アドバイザリーボードを、7月1日の午前中に開催したいというふうに考えております。今後の段取りなどを相談する予定にしております。

それから段階的に経済活動が再開されていく中で、前向きな動きも徐々に広がってきています。いわゆる就職氷河期世代の方々への支援、そして第二のそうした世代を生まないための取

り組み、こういったことが重要な課題となってきました。就職氷河期世代の方々の採用、チャンスを広げていくということも進めていきたいと思っておりますが、来週の月曜日、29日17時から第2回の「就職氷河期世代支援の推進に向けた全国プラットフォーム」を開催したいというふうに思っております。「就職氷河期世代支援に関する行動計画」を昨年つくったわけですが、その取り組み状況、進捗状況、そして予算もいただいておりますので、そういった活用状況などについて議論を行う予定にしております。私からは以上です。

（問）感染状況について伺います。北海道にクラスター班を設置したということでありませけれども、分析もお聞かせいただきたい。

（大臣）北海道は御案内のとおり、昼カラオケがクラスターのなっています。札幌と小樽、多くが昼カラオケの関連、あるいはその濃厚接触者ということで、これについての分析を進めていきたいというふうに考えています。

それから先ほど尾身先生ともお話をしましたけれども、新規感染者の数がふえていることについては、積極的な集団検査を受けていただいている取り組みの結果のあらわれでもありますので、この数自体で今何か方向性を変えるということは考えておりませんけれども、しかし埼玉で数がふえてきていることなどを含めて、緊張感を持って分析をしっかりと進めたいというふうに考えています。よりデータをしっかりと分析して、これまで考えていたところ以外にもクラスター的なものがあるのかなのか、そういったことを含めてしっかりと分析をして、緊張感を持った対応を考えていきたいというふうに思っています。

（問）コロナ対策の研究について伺いたい。今、スーパーコンピュータの「富岳」などを活用して、これまでの対策の効果などを分析していると思われるが、これはAIアドバイザーボードとか、分析の結果などが政府対応の中間検証的な位置づけになるのか、それともあくまでSIRモデルとか8割接触削減の効果とか、そういう限定的な絞った検証になるのか。

（大臣）いわゆる政府全体の取り組みの検証については、事態が本当にもう少し落ちついた段階で行うべきだというふうに思っています。また、第三者の目も入れながらしっかりとした検

証を行っていければというふうに考えています。今はまだまさに100人を超える中で、現場で日々対応しておりますので、そういう意味で議事録とか記録をしっかりと精査していただいて、後からしっかりと見ていただくというその検証は、落ちついてからだというふうに思っています。ただ、既にこうした小さな波は幾つも起こってくるわけですし、また、それが大きな波にならないようには取り組むとしても、大きな波になる、大きな流行になることも想定しながら、対策をより進化させていかなきゃいけないと思っています。

1回目の大きな波、4月5月に緊急事態宣言を我々は経験してきましたので、そのときに講じた対策がどういう効果を持ったのかと。これをしっかりと分析したいと思っています。SIRモデルも、1つしかないそのモデルに頼ってやってきたわけであります。もちろん皆さんに8割接触削減をお願いする中で、これだけ新規感染者の数を減らすことができているから、当然取ってきた対策には効果があったわけですがけれども、それぞれの対策がどれだけの効果を持ったのかという分析であったり、「富岳」を使うことによってさまざまな飛沫の感染経路もわかってきていますので、そういったことも活用しながら、次なる波に備えての対策をブラッシュアップ、いわば進化させていく、そのための分析だというふうに考えています。ありがとうございます。